

地形と雪の関係

本格的な雪の季節になりました。洞爺湖有珠山ジオパークは4つの市町で構成されていますが、積雪量は地区によって差があります（図1）。この差には、地形も大きく関係しています。

北海道では、冬になると北西から乾いた寒気が流れ込みます。この北西からの季節風は、日本海を通るときにたくさんの水蒸気を含み、雪雲を作ります（図2）。風に乗った雪雲はやがて北海道に上陸し、山々にぶつかります。山を越えるとき、重い水蒸気が雪となって山麓に降り、軽くなった雲は山を越えて、平地へと流れていきます。

図1.垂直積雪量

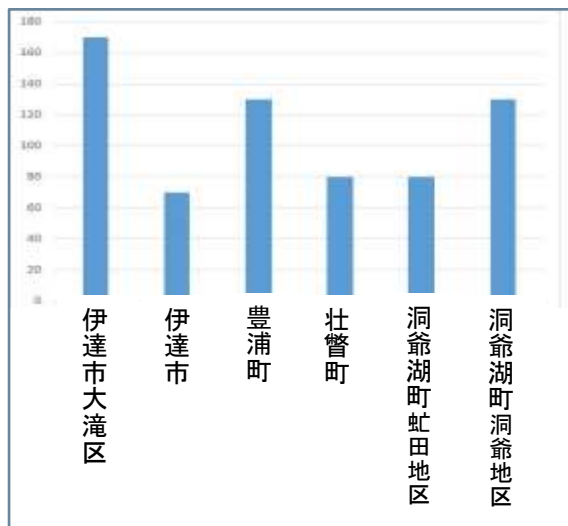
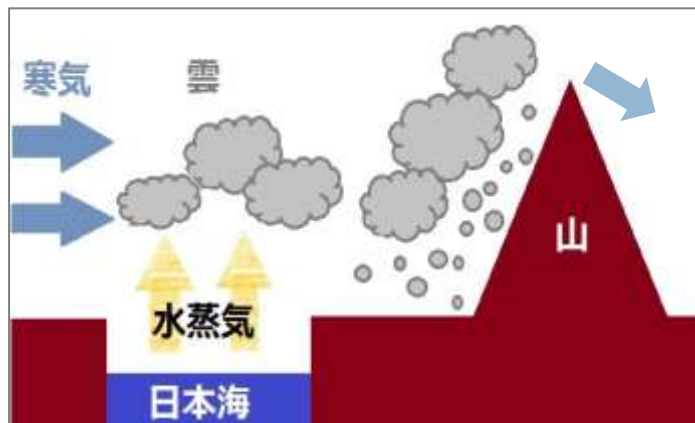
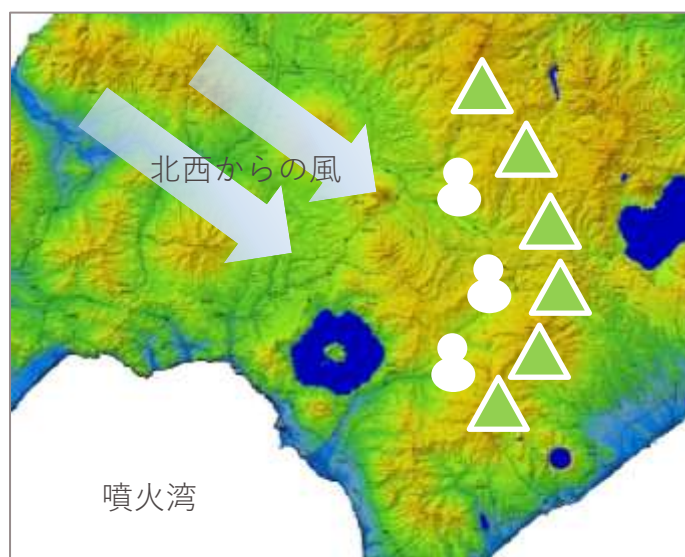


図2.日本列島の西側に豪雪地帯が多い理由



日本海には、南から暖流である対馬海流が流れ込む。季節風との温度差が大きいため、雪雲ができる。

図3.季節風の流れ込み



洞爺湖有珠山ジオパークの東端にあたる徳舜瞥山やオロフレ山など、約170万年前の火山活動でできた山々は、北西からの風を受けるため、西麓の伊達市大滝区にたくさんの雪が降ります。2018年3月の大雪では、雪の重みで木が倒れ停電するなどの被害もありました。

一方で、大滝地区ではこの雪を生かし、「おたき国際スキーマラソン」など、冬のスポーツに力を入れています。

冬ならではの災害に備えながら、健康で楽しい季節にしたいですね。

